

茨城大学工学部 都市システム工学科 令和7年度前期 学科教育点検報告書

令和7年 10月 10日

報告者 都市システム工学科 学科長 原田 隆郎

1. 実施日時と場所

令和7年9月26日（金）9:00～11:00, 13:00～14:30 TEAMS オンライン

2. 出席者

常勤教員：遠藤克彦，熊澤貴之，桑原祐史，小林薫，原田隆郎，平田輝満，藤田昌史，久野靖広，車谷麻緒，肥田剛典，稲用隆一，増永英治，伊藤大知，一ノ瀬彩，海野遥香，大村高広（全常勤教員17名のうちの16名が出席）

（常勤教員のうちの欠席者：横木裕宗）

非常勤教員：出席なし

技術職員，事務職員：出席なし

3. 添付資料

資料1-1 2025年度（前期）学科_教育改善委員会議事録

資料1-2 2025年度（前期）都市システム工学科_専攻FD研修会議事録

資料2 2025年度（前期）学科・専攻教育改善委員会およびFD研修会議事次第

資料3 2025年度前期 授業点検改善表集（学科）

4. 授業点検の実際

4. 1 アンケート実施状況

点検評価に先立って実施した，授業アンケートの回収状況は以下のとおり．

常勤教員担当科目分： 28科目／常勤教員担当科目総数 28科目

非常勤教員担当科目分： 3科目／非常勤教員担当科目総数 3科目

4. 2 点検した科目

前期に開講した専門科目の総数31科目中31科目（100％）．ただし，工学部基礎教育実施部で授業点検を行う専門科目は省略した．

情報リテラシー，大学入門ゼミ，線形代数Ⅰ，都市システム工学序論，都市システム工学製図，構造力学Ⅰ，水理学Ⅰ，地盤力学Ⅰ，プログラミング演習Ⅰ，都市データサイエンス入門，常微分方程式，測量学，交通システム（2年次，1単位），土木計画学Ⅰ，建築計画学，建築一般構造，建築設計基礎演習，建築設計製図Ⅰ，建築設計製図Ⅲ，建築法規，建築施工，建築史，振動及び耐震工学，地盤工学，橋梁及び鋼構造，都市システム工学実

験Ⅰ，上下水道工学，海岸工学，交通システム（3年次，2単位），社会基盤設計演習Ⅰ，交通システム（集中，2単位）

※下記4科目については，前期点検科目数から除外する．

- ・建設材料学

夏期集中講義として計画していたが，受講者いなかったため開講なし．

- ・都市システムインターンシップ

前期集中講義として計画したが，受講者いなかったため開講なし．

- ・測量学実習，建築環境工学演習

夏季集中講義として現在進行中であるため，点検は後期FDとする．

4. 3 具体的な点検方法

前期に点検可能な科目 31 科目中 31 科目について，以下の方法で点検を実施した．各科目の具体的な点検結果は，資料 1-1 の議事録における「点検評価と結果」を参照のこと．

- ・ 5 科目程度のグループ（資料 2 参照）ごとに，各授業担当の教員が担当科目の授業点検改善表（資料 3）等の資料に基づいて，特に前年度の点検評価で出された各科目の課題・問題に対する対応実績について説明し，それに対しての参加教員全員からの質疑・コメントを受ける形で，点検を実施した．
- ・ 随時，提出済みの電子データや，茨城大学 FD/SD 支援システムを参加者が各自で確認し，それに関しても必要に応じて議論した．
- ・ ファイル提出された教員間ネットワークの活動状況についても，確認した．
- ・ TA を利用している授業は，TA 利用の実際やその効果について授業資料にまとめている．
- ・ 各科目間の成績評価の分布状況を『成績分布表』を用いて確認した．（R3 機関別認証評価対応）

5. 点検評価の結果

5. 1 昨年度の点検評価で出された改善策のフォローアップ

点検を行った全ての科目において，昨年度に改善すべき問題点は改善されていたことが確認された．

5. 2 今回の授業方法で優れている点

「大学入門ゼミ」ではグループワークや発表を積極的に取り入れ，学生間のコミュニケーションを活性化させた点が高評価だった．「構造力学Ⅰ」では毎週の課題に加え小テストを実施し，繰り返し学習の機会を提供したことが好評であり，継続的な学習を促したと言える．「プログラミング演習Ⅰ」では講義中に教員が実演し，学生が模倣しながら学べる実践的な方法が優れていたと言える．「建築史」ではミニツッペーパーを導入し，授業で得た興味や疑問を共有する仕組みを構築するなど，主体的学習（アクティブラーニング）を促

す工夫が報告された。

5. 3 今回の授業方法で改善すべき点

「情報リテラシー」では授業の意義を感じないとのアンケート結果があり、既に技術を習得してしまっている学生に対し動機付けを強化する必要があると言える。「都市システム工学序論」ではレポートと授業内容のリンク不足や参加方法の改善が課題であることが報告された。「交通システム」では授業のスピード感に関する指摘があり、内容の取捨選択を検討すべきことが課題となった。「振動及び耐震工学」では演習時間や Excel 解説の不足がアンケートで指摘され、補助資料の充実が課題として残る。学科全体の科目を通して、学生の理解度を高めるため、演習や復習機会の拡充と学習意欲を喚起する工夫をすることが課題である。

6. 教育改善活動

授業における成績評価の方法について明確にすべきことや、授業アンケートをふまえた上での学生へのフィードバック方法について確認がなされた。また、会議中に抽出された問題点について、その改善方法を議論したところ、以下のような意見があった。

- ・ 授業の目的や実社会での活用事例を明確に示し、学ぶ意義を理解させる工夫を行う。
- ・ 講義中に質疑応答やディスカッションを取り入れ、学生の主体的参加を促す。
- ・ 小テストや演習時間を増やし、理解度を確認しながら進める。
- ・ 穴埋め式資料や動画教材を活用し、授業外でも学習しやすい環境を整備する。
- ・ 重要項目を明示し、詳細説明と資料配布のバランスを調整する。
- ・ Excel やプログラミングなどの操作解説を動画やオンライン教材で補完する。

また午後の FD 研修会では、学生評議委員のアンケート結果を共有し学科として改善できる内容についての議論を行なった。その中では以下のような意見があった。

- ・ 講義資料の配布方法が複数あるという指摘について、Teams を使用している教員から、Teams の場合、情報の共有がしやすい、オンラインでつながりやすい、学生の発表がある場合に便利という意見があった。大学の方針としては、manaba の使用を推奨していることが示された。
- ・ レポートを返却してほしいという指摘について、返却可能な場合は返却しており、難しい場合は返却できていないという意見があった。個別に全ての項目について詳細に学生へフィードバックすることは現実的に難しいという意見も出た。
- ・ 研究室の仮配属の活用方法、指導方法、必要性、今後の課題について意見交換が行われた。

さらに、学部生特に 24T 学生の成績が著しく悪いことが報告され、以下のような報告や

意見があった。

- ・ 24T 担任（肥田）から、24T 学生の学習態度や GPA 分布についての報告があった。上位の学生は学習に積極的ではあるが、そうでない学生も増えてきている。
- ・ 授業の欠席者は少なく、授業態度は悪くないように見えるが、試験や課題では点数がとれず、勉強をしていないようであるとの報告があった。
- ・ オンデマンド配信とした授業ビデオをほとんど見ていないという報告があった。
- ・ 次は真面目に勉強しないと、卒研着手できない学生が大幅に増えるかもしれないという懸念点が示された。
- ・ 毎回、小テストを課すなどして、出席と勉強の両方を行わせる方法が有効かもしれないとの意見があった。
- ・ 自分でレポートを書いていない部分が見られるとの報告があった。

7. 報告書の開示

この報告書と同じ内容の書類を Teams 内に設置した学科 FD チャンネルに保管し、学科の全教員が自由に閲覧できるようにした。

8. 『産学連携カリキュラム改良委員会』を受けての教育改善活動について

直近の産学連携カリキュラム改良委員会における議論を受けて、FD 研修会では学生のモチベーションをいかに向上させ、学習を促していくかについて議論を行い、学年別の成績分布等を比較し、近年の学生の学習状況を共有し適切な授業方法等についての議論を行なっている（資料 1-2 参照）。

現状の授業内容について土木・建築で共通する内容や、年次進行している新カリキュラムの融合教育のメリットなどを整理し、今後の授業内容の改善について引き続き検討を続けることになった。

9. その他

特になし。